

2022 7.23 [土]・24 [日]

神戸国際展示場1号館1F (参加受付のフロア)

シンポジウム18 在宅医療とアート

第8会場 展示室A (展示場1号館2F)

7.23 [土] 14:20 ~ 15:50

第4回在宅医療連合学会大会

シンポジウム18

在宅医療とアート
連動企画

暮らし展

そここの

Art

山本美里
尾山直子
清水朝子
毛利安孝



尾山直子「ぐる」



山本美里「透明人間-Invisible Mom」



清水朝子「診療所」を撮る 企画制作・唐川恵美子



毛利安孝「けったいな町医者」

本学会シンポジウム18「在宅医療とアート」と連動して、登壇されるシンポジストの方々の作品の特別展示を開催する機会を頂きました。

医療のみならず、その方の生活や暮らしに寄り添いささえる在宅医療において、本人の生き方や価値観、大切にしていることなどに触れることで、自らの人生観や死生観を動かされることもしばしば経験します。その方らしい生き方を続けていくこと、それをささえる家族の喜怒哀楽、やがて迎える死の場面にも尊厳や感謝、愛情を感じられる喜び。こうした人々の豊かな営みは、文化として伝え受け継がれていくべきものです。

ここ数年在宅医療やケアをテーマとした作品展が全国あちこちで開かれたり、映画やテレビ番組が制作されるようになりました。シンポジウムでは、訪問看護師、在宅診療所文化企画、医療的ケア児の母親、写真家や映画監督など、様々な立場や視点で作品づくりをなさっているアーティストたちに登壇頂き、それぞれの創作活動に寄せる思いや制作・展示から得られた学びや気づきなどを語り合います。

本展覧会では、シンポジウムと連動して、それぞれの作家の作品を一室に展示することができました。在宅医療を中から外から見つめて、向き合っ、かけがえのない瞬間を捉えた写真や映像の数々に、あなたは何を感じるでしょうか。

ぜひこの機会にじっくりご鑑賞頂ければ幸いです。

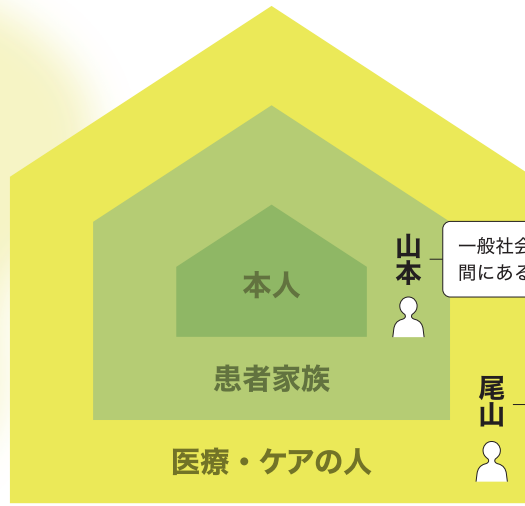
遠矢 純一郎

(桜新町アーバンクリニック/シンポジウム・展示企画)

在宅医療とアート

訪問看護師、在宅診療にいるアートマネージャー
医療的ケア児の母親、写真家、映画監督
それぞれの見つめる先に。

Art



在宅医療の全体像や医療者を見つめる

毛利 清水
二人のアイコン

ケアを文化や表現活動として企画・発信する

唐川
一人のアイコン

ケアの現場をデザインを通じて翻訳・調整する

神野
一人のアイコン

一般社会と自分たちの間にある葛藤を見つめる

山本
一人のアイコン

ケアをする者・される者の関係性を見つめる

尾山
一人のアイコン

A 清水 朝子

Asako Shimizu



東京都出身。日本大学芸術学部写真学科卒業、元マガジンハウス勤務。2006年キャノン写真新世紀優秀賞受賞。個展「空にむかって 地へ向けて」(ライカ GINZA SIX)「Finding a Pearly Light」(森岡書店)をはじめ、仏、ベルギーなど国内外で出展する。『「働く」の教科書』(中央法規出版)など、福祉現場での活動も10年近く展開。



唐川 恵美子

Emiko Karakawa

「ほっちのロッヂ」文化環境設計士。これまでに、都内・地元福井県の公共文化施設にて舞台音響・企画広報を担うかたわら、2017年より音楽家が地域の老々介護世帯を見守る活動「アーティスト・イン・ばあちゃんち」を立ち上げ運営する。社会包摂やケアの視点から文化芸術のポテンシャルを引き出す企画制作に取り組んでいる。



ほっちのロッヂでの企画制作・運営実績

- 2020年5～6月 窓の外美術館コーディネート
- 2020年7～8月 滞在制作「人生、喜怒哀楽プロジェクト」
- 2021年7～9月 滞在制作「クリエイティブ・カルテ」
- 子どもアトリエ開創
- 2021年9～12月 滞在制作「ケアの文化のポートレート」
- 2022年1～3月 滞在制作「オモシロがり屋のサーカス合宿」

B 山本 美里

Misato Yamamoto



1980年生まれ。東京都出身。4児の母。2008年生まれの第3子が医療的ケア児。2015年子どもの特別支援学校入学を機に学校付き添いがスタート。その生活を題材にした「透明人間 - Invisible Mom -」を2020年発表。同タイトルの写真集を出版。



C 尾山 直子

Noko Oyama



東京在住。桜新町アーバンクリニック在宅医療部に勤務。訪問看護師として働きながら、京都造形芸術大学を卒業。現在は、かつて暮らしのなかにあった看取りの文化を現代に再構築するための取り組みや、老いた人々との対話や死生観、人が人を看取ることの意味を模索し、写真作品制作を行っている。2020年より写真展「ぐるり。」巡回中。



D 毛利 安孝

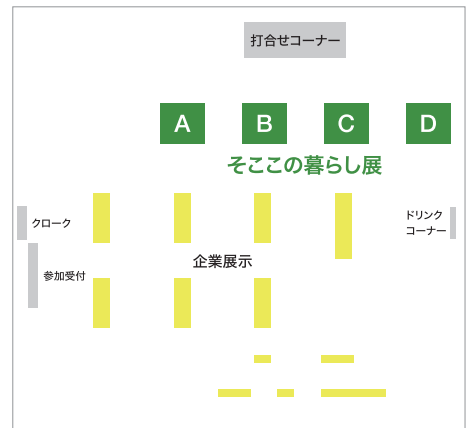
Yasutaka Mouri



1968年生まれ。大阪府出身。フリーランスの映画助監督を経て、2010年「おのぼり物語」にて長編商業映画にて監督デビュー。2021年尼崎の在宅医・長尾和宏氏の日々を追いかけたドキュメンタリー映画「けったいな町医者」を発表。尚、同時期に発表された在宅医療と尊厳死をテーマにした映画「痛くない死に方」(長尾和宏氏原作：高橋伴明監督作品)では助監督を務めている。



会場 神戸国際展示場1号館1F



本展示(在宅医療連合会)は、所属や職種によって参加費用が異なります。詳しくはこちらをご覧ください。



主催 桜新町アーバンクリニック 協力 診療所と台所のあるところ ほっちのロッヂ

企画 遠矢純一郎(桜新町アーバンクリニック) / 神野真実(株式会社メディヴァ) / 夏目真季(桜新町アーバンクリニック) / 尾山直子(桜新町アーバンクリニック)

デザイン グラム・デザイン